

私のおすすめ

CD/楽譜

グローバル「エシャンジュ」の自作自演

大学院音楽研究科博士後期課程器楽研究(チューバ)2年 坂本光太

「まずトロンボーンを用意します。楽器にすっぽりと挿入されたストレート・ミュートを左手で外し、そのまま小さなシンバルを手にします。そのシンバルを小刻みにベルに叩きつけながら、マウスピースを右手で素早く外し、ファゴットのリードをトロンボーンに取り付け、息を吹き込みます、その際全力で吹奏しなくてはなりません。両手が塞がっているので、トロンボーンのスライドの先を左足で床に固定して、代わりに上半身を上下にスライドさせることでグリッサンドを演奏します。では今度は、チューニングのための抜き差し管を引っこ抜いて、音が頭の後ろの方に出るようにして、サクスのマウスピースを楽器につけて吹いてみます…」

CD「Globokar by Globokar」(1992)に収められているある楽曲の演奏行為を言葉で表現することを試みたが、その音を想像できる人がいるだろうか？

ヴィンコ・グロボカール(1934生)は、スロヴェニアに出自を持つフランス人トロンボーン奏者・作曲家である。トロンボニストとして、武満、ペリオ、シュトックハウゼン、カーゲルなどの同時代作曲

家の作品を共同制作・初演した経験は、自身の作曲に大きな影響を与えた。彼の(特に1970年代初頭の)楽曲は、特殊奏法の徹底的な使用、演奏者への身体的限界の要請、自発性の導入と言った特徴が見られる。《エシャンジュ》(1973)は、冒頭の描写のように各楽器のマウスピースや種々のミュートを絶えず「交換」(エシャンジュ *échanges* = 交換の意)しながら吹奏することによって、荒唐無稽・非伝統的・非正統的な、音響・演奏行為・楽器法を実現し、トロンボーンを従来の文脈から完全に逸脱させ、ノイズ・マシーンに異化させている(なお楽曲中音高や音価は一切記譜されていない)。

その名の通りCDは全曲自作自演によるものであり、作曲家・演奏家としての両側面が見られることが一番の醍醐味である。特に、この《エシャンジュ》を耳にすれば、異常に高い演奏テンションと、極度に歪んだトロンボーン・ノイズの破壊的洪水に引き込まれてしまうだろう。



CD 「Globokar by Globokar」 Harmonia Mundi France
(Musique française d'aujourd'hui) 請求番号●XD22028[ほか]
楽譜 Echanges : für einen Blechbläser / Vinko Globokar. H. Litolf/ C.F. Peters 請求番号●H26-959

さかもと こうた ● 大学院に入ってから修士を取得するまでに5年かかりました。「博士は何年かかるだろうか」と電車で揺られながらぼんやり考えます。

図書

苦手なものとの再会

演奏・創作学科弦管打楽器専修(ヴァイオリン) 4年 花岡美伶

タイトルを見ると数式やグラフを駆使して、ひたすら音の響きや楽器の仕組みを科学的に論じている、いかにも難しそうな内容が述べられた本…のような気がしますが、「音楽」を科学的にとらえながらも難しい専門用語をほとんど用いない、音楽に詳しくない読者でもわかるように書かれている「親しみやすい」1冊です。

音楽と雑音の違いとは？ 和声と不協和音の違いとは？ 音階はどのようにして生まれたのか、ポピュラー音楽とクラシック音楽の違いとは？ など答えにくい音楽の常識を物理学者でありながら作曲家でもあるジョン・パウエルが、科学的視点で丁寧に解説しており、また、筆者の独特のユーモアをふんだんに織り交ぜながら書かれているので、読み進めるたびに音楽についての新たな発見を見つけることができます。

私がこの本と出会ったのは、教育実習前に実習校から出された課題を、図書館2階にあるスタディールームを利用して日々取り組んでいる時でした。スタディールームは全集楽譜や書籍、雑誌が充実しており、豊富な学習スペースもある図書館の中でもお気に入りの場

所です。スタディールームの開架図書コーナーは、課題に行き詰まった時の気分転換としてよく眺めており、そこでこの本を偶然見つけました。普段はこのような難しそうな本はスルーすることがほとんどですが、この時は課題に行き詰まり気分を変えたいと思っていたことや、音の響きについて興味をもっていたこともあり、自然と手に取っていました。

この本を通して、音について物理的・科学的な視点から考えることで、より表現の可能性が広がる気がしました。また、新しい知識を得ることがこの上ない喜びであることを久しぶりに味わうことができました。

数学的な考え方に苦手意識があり、物理的・科学的にとらえることを今まで避けてきた私が、素敵な本との出会いによって音楽を科学的な視点で見つめてみようと思直すことができました。私のように数字に苦手意識を持っている人にこそオススメしたい1冊です。



『響きの科学：名曲の秘密から絶対音感まで』ジョン・パウエル著
小野木明恵訳 早川書房 2016 請求番号●J131-074

はなおか みれい ● 教育実習先で音楽以外の教科をたくさん見学しました。中学高校時代もっと視野を広く勉強していればよかったなと思ってしまいました。